

経済指標レポート 第227号

(社)関西経済連合会 経済・経営グループ(担当:壺井)

Tel : 06 - 6441 - 0102 Fax : 06 - 6441 - 0443

関経連と大阪商工会議所が会員企業対象に今月上旬に実施した「第24回経営・経済動向調査」では、足元の景況感については堅調だったものの、国内景気の先行きのBSI(「上昇」と回答した企業の割合から「下降」と回答した企業の割合を差し引いた指数)見通しは、2007年4~6月期で足下水準の半分近くまで下回るという慎重な結果になった。

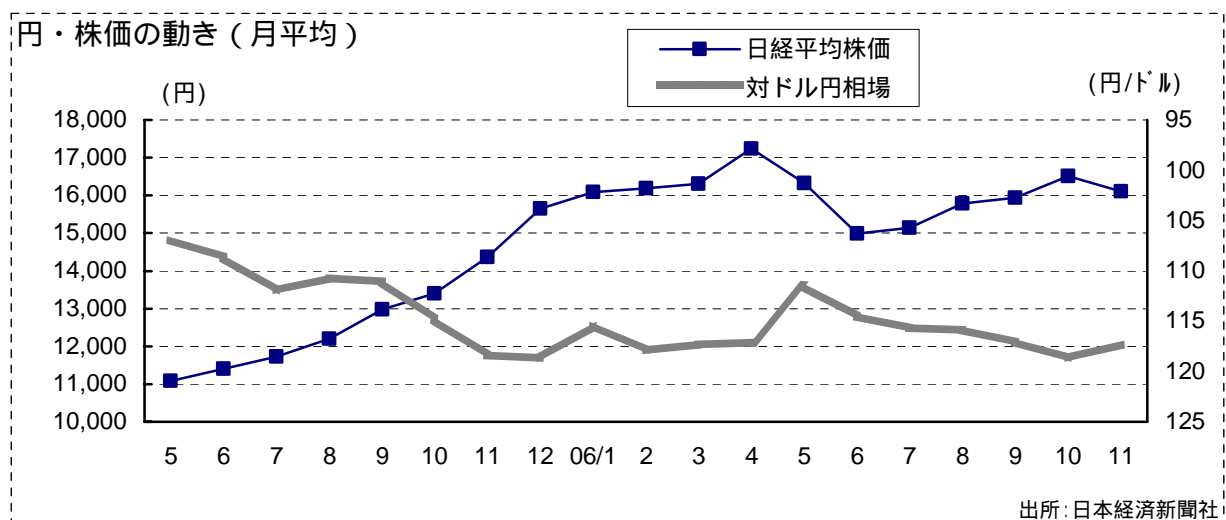
日銀大阪支店が発表した今月の近畿地区の短観においても同様のトレンドで、足元の景況は全国を上回る勢いとなっているが、先行きについては中小製造業を中心に慎重な見方が広がっている。

一進一退や先行き不安な指標が多い中で、注目すべきは堅調に推移している雇用情勢である。

総務省が今月26日に発表した11月の完全失業率(季節調整値)は4.0%で前月比0.1ポイント下がっている。また、完全失業者数も前年同月比33万人減の259万人と1998年4月以来約8年ぶりの低水準となるなど、継続して改善が続いている。また、当会主要会員企業の動向からも、積極的な採用活動の波及が窺える。

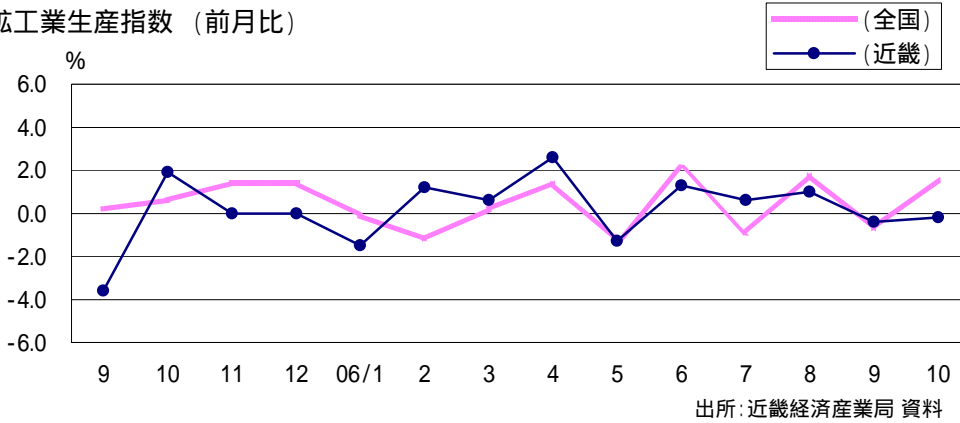
今年初めから比較すると、景況は回復傾向が続いているものの、総じて落ち着いてきている。ただ、来年はさらに日銀追加利上げや増税論議など、弱気なマインドを生み出す要因も控えており、年間を通して経済情勢がどうなるか、先行きを注視していかなければならない。

各指標の動き(各指標項目は10月指標値)



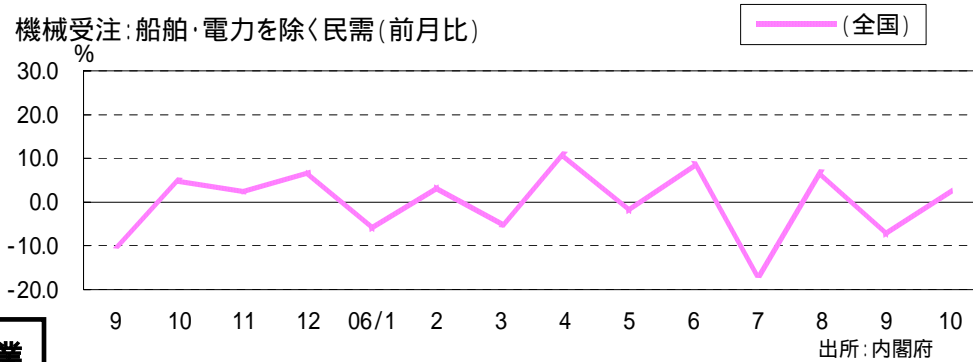
生産・機械受注

鉱工業生産指数 (前月比)



近畿は前月比 0.2% 減と 2 ヶ月連続で低下した。化学工業 (医薬品除く)、電気機械工業、電子部品・デバイス工業、一般機械工業が低下している。

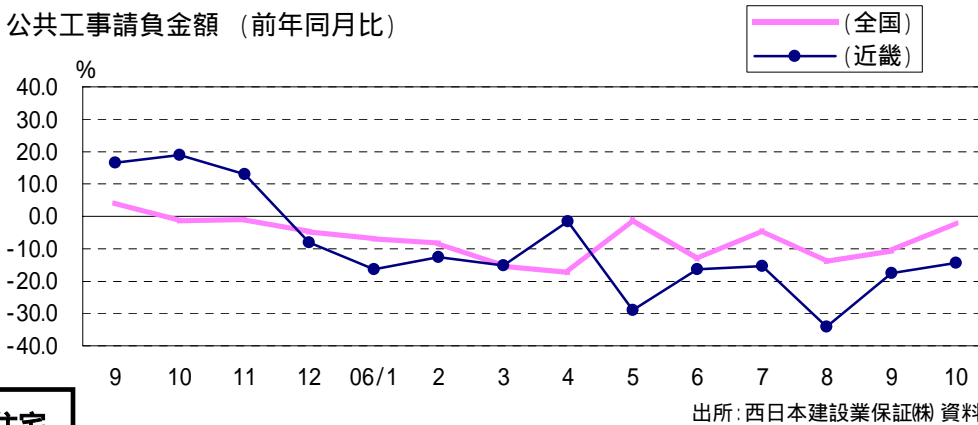
機械受注: 船舶・電力を除く民需 (前月比)



機械受注は前月比 2.8% 増となった。業種別の受注は製造業が同 10.0% 減、非製造業 (船舶・電力を除く) は同 10.9% 増となった。

公共事業

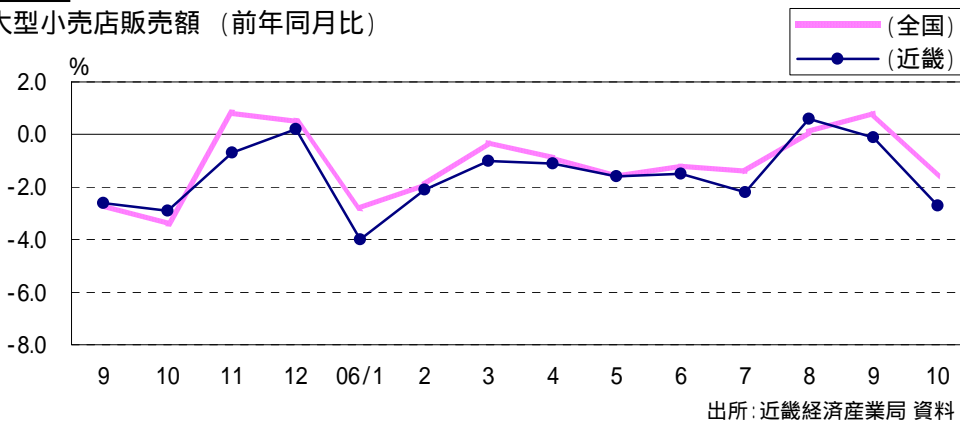
公共工事請負金額 (前年同月比)



近畿は前年同月比 14.3% 減。発注者別では「国・独立行政法人等」で大幅減、市町村・府県で減少、「その他公共的団体」で前年並みとなった。

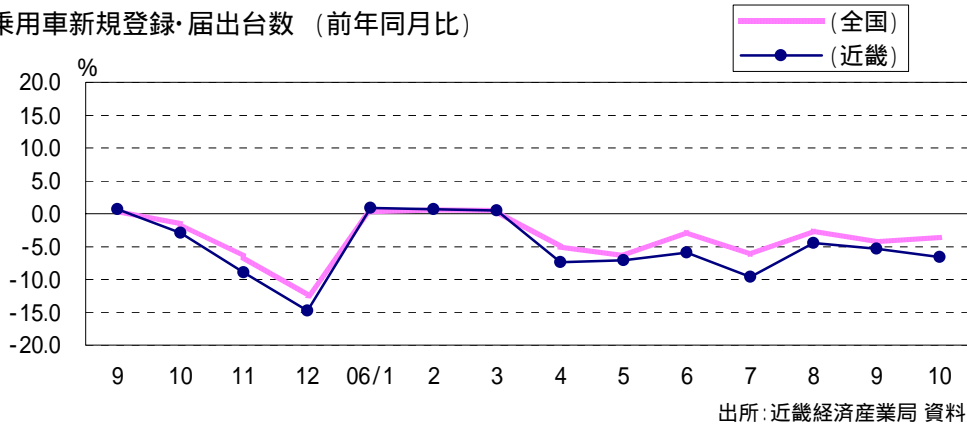
消費・住宅

大型小売店販売額 (前年同月比)



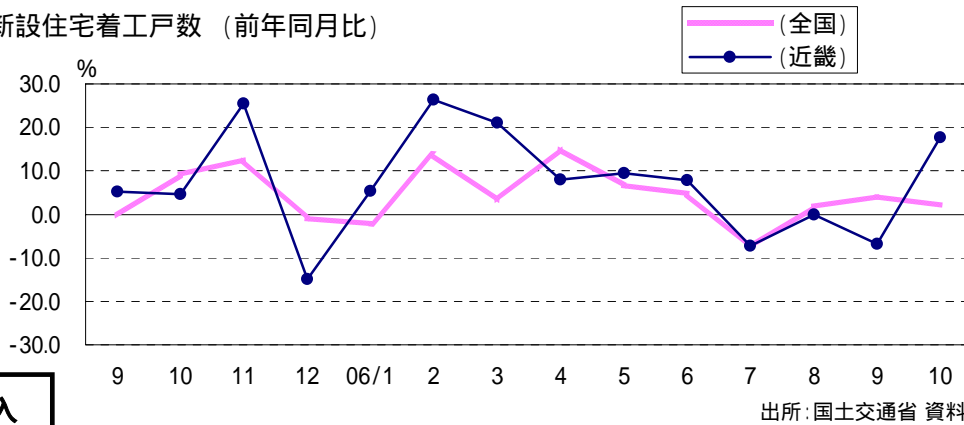
近畿は既存店ベースで前年同月比 2.7% 減と 2 ヶ月連続のマイナスとなった。「衣料品」「家具」等の不調が大きい。

乗用車新規登録・届出台数 (前年同月比)



近畿は前年同月比6.6%減と7ヶ月連続で前年を下回った。軽四車が5ヶ月連続で前年を上回ったものの、普通車が16ヶ月連続で、小型車が7ヶ月連続でそれぞれ前年を下回った。

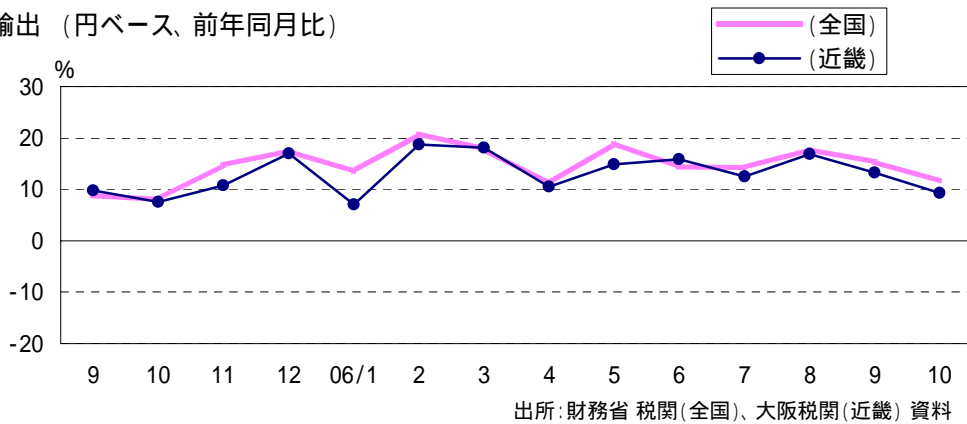
新設住宅着工戸数 (前年同月比)



近畿は前年同月比17.7%増と4ヶ月ぶりに前年を上回った。持家が4ヶ月ぶりに前年を下回ったものの、分譲住宅が4ヶ月ぶりに前年を上回った。

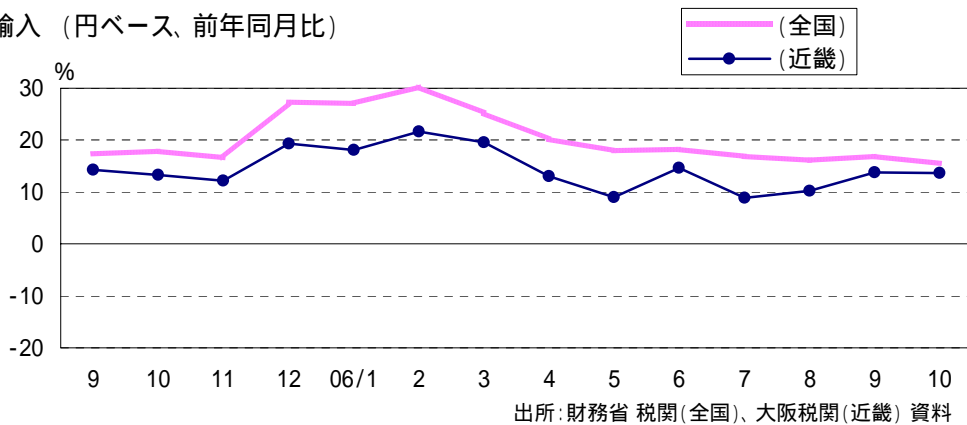
輸出入

輸出 (円ベース、前年同月比)



近畿は前年比9.3%増で55ヶ月連続のプラスとなった。音響・映像機器部分品、非鉄金属、ガラス・同製品が過去最高を記録。

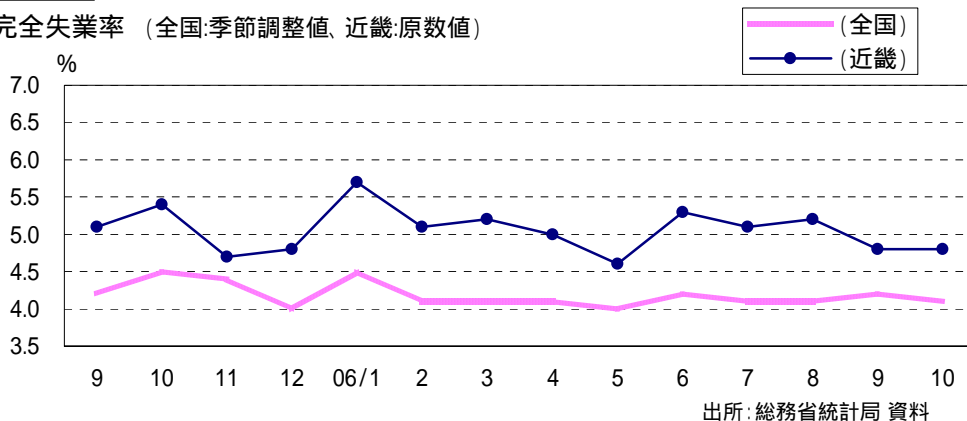
輸入 (円ベース、前年同月比)



近畿は前年比16.5%増で33ヶ月連続のプラスとなった。品目別では衣類などが好調。

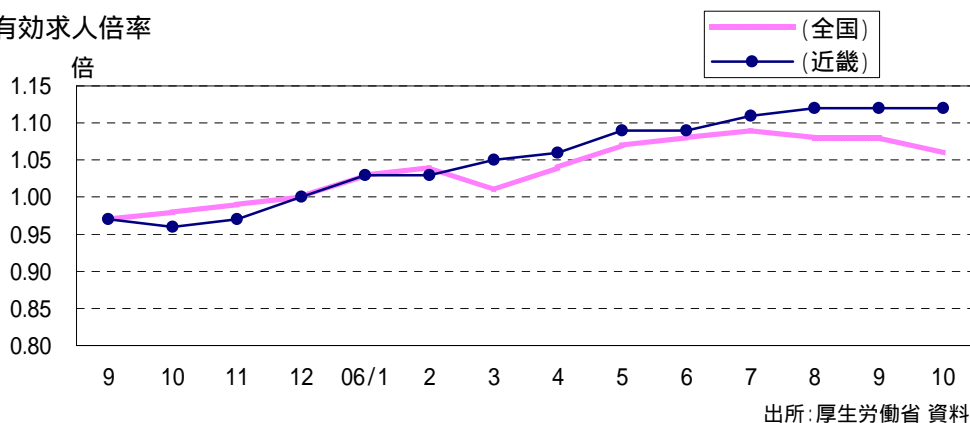
雇用・倒産

完全失業率 (全国:季節調整値、近畿:原数値)



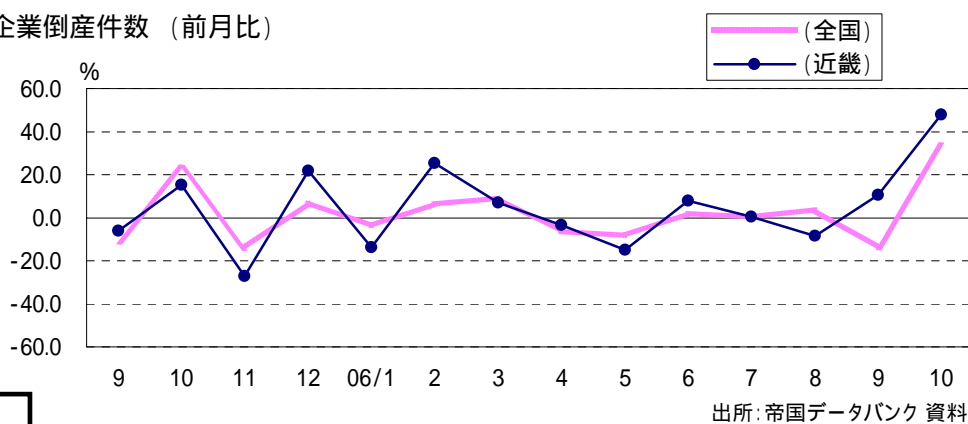
近畿の完全失業率は4.8%で、2ヶ月連続で前年を下回った。基調としては、引き続き緩やかに改善している。

有効求人倍率



近畿は前月と変わらず1.12倍となった。全国(1.06倍)を上回る勢いで推移している。新規求人倍率は1.62倍と前月から低下している。

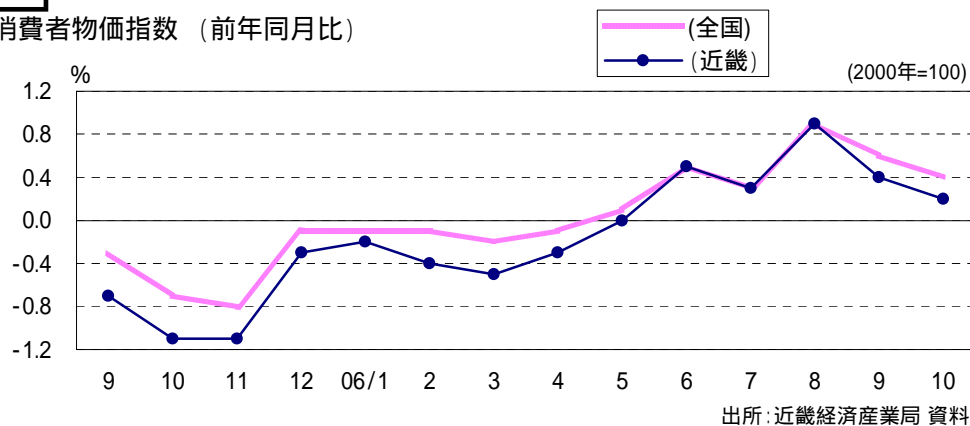
企業倒産件数 (前月比)



近畿の倒産件数は前月比47.8%増。3ヶ月移動平均で見ると、前年秋から微増傾向で推移している。

物価

消費者物価指数 (前年同月比)



近畿は100.3で前年同月比0.2%増と2ヶ月連続で低下した。「家具・家事用品」「教養娯楽」「住居」「交通・通信」「保健医療」などが低下している。